

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	小児の健康障害への看護		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限		教室名	
担 当 教 員	寺崎経子	実務経験と その関連資格	総合病院にて、臨床経験 計15年(主に小児病棟勤務)、地域の学校看護師経験			
《科目目標》 ①成長発達過程にある子どもと家族の看護について、入院や検査・治療、健康段階や障がい、在宅など、さまざまな状況から理解する。 子どもと家族について、保健・医療・福祉・教育の面から多角的に考えていき子どもの権利条約と重ねて理解する。 ③子どもの特徴的な症状、疾病の病態生理を含め、検査・治療とその看護を理解する。						
《成績評価の方法と基準》 【評価方法】終講試験80% 課題レポート20% 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシンググラフィカ 小児看護学③小児の疾患と看護、中村友彦編、メディカ出版 【参考書】 ナーシンググラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護、中野綾美編、メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学②看護技術、中野綾美編、メディカ出版						
《授業外における学習方法》 1)小児特有の疾患の理解に向け、病態治療論、病態治療Ⅰ～Ⅴを復習し講義に臨む。 2)テキストや資料を基に知識を集約し、理解できるように臨む。						
《履修に当たっての留意点》 1)小児看護学概論や小児の健康増進への看護の内容もふまえ、健康障害を持つ子どもと家族の看護について学習する 2)小児に特徴的な疾患の患者の看護を事例をふまえ学習するため、理解のために臨床薬理、臨床検査、臨床治療論も振り返る。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 遺伝性疾患・染色体異常をもつ子どもの病態・症状・治療が理解できる 2. 新生児疾患をもつ子どもの病態・症状・治療を理解できる 3. ハイリスク新生児・先天的疾患の病態生理、治療をふまえた看護の実際を事例を通して理解できる	教科書p.35～48、p.62～68、p.52～60、p.78～87 資料	動画を視聴し、胎児の生態的特徴、新生児の身体的特徴を復習し、小児特有の疾患を理解する	
		各コマにおける授業予定	新生児疾患、染色体・遺伝子異常について小児特有の病態生理、治療 ・染色体異常症、ダウン症、低出生体重児、呼吸促拍症候群(AR)、口唇口蓋裂 ハイリスク新生児と家族への看護 先天的な健康問題を持つ子どもと家族への看護			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 感染症の子どもと病態と・症状・治療・看護が理解できる 2. 呼吸器疾患をもつ子どもの特徴と病態・症状・治療・看護が理解できる	教科書p.148～194	既習学習である病態治療Ⅰを復習し、小児特有の疾患を理解する	
		各コマにおける授業予定	感染症と呼吸器疾患について小児特有の病態生理、治療 ・肺炎、RSウイルス感染症、ウイルス性感染症 ・気管支喘息			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	急性期の健康障害の病態生理、治療をふまえた看護の実際を事例を通して理解できる	教科書p.139～144 資料	グループワーク 小児看護学概論の成長発達や健康段階における看護の特徴を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	急性期の健康障害をもつ子どもと家族への看護 ・川崎病 ・IgA血管炎 ・症状:発熱、呼吸困難			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 内分泌疾患をもつ子どもの病態・症状・治療を理解できる 2. 免疫・アレルギー・膠原病疾患を持つ子どもの病態・症状・治療を理解できる 3. 腎・泌尿器疾患をもつ子どもの病態・症状・治療を理解できる	教科書p.88～97、p.120～127、p.264～291	既習学習である病態治療Ⅳを復習し、小児特有の疾患を理解する	
		各コマにおける授業予定	内分泌疾患・免疫・アレルギー・膠原病・腎・泌尿器疾患について小児特有の病態生理、治療 ・Ⅰ型糖尿病、アレルギー、若年性特発性関節炎、ネフローゼ			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性期の健康障害の病態生理、治療をふまえた看護の実際を事例を通して理解できる	教科書p.88～97、p.120～127、p.264～291	グループワーク 小児看護学概論の成長発達や健康段階における看護の特徴を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	慢性的な疾患を持つ子どもと家族への看護 ・気管支喘息 ・ネフローゼ ・Ⅰ型糖尿病			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 循環器疾患をもつ子どもの病態・症状・治療を理解できる 2. 集中治療を受ける疾患の病態生理、治療をふまえた看護の実際を事例を通して理解できる	教科書p.198～208	既習学習である病態治療Ⅰ・Ⅱを復習し、小児特有の疾患を理解するグループワーク 小児看護学概論の成長発達や健康段階における看護の特徴を復習しておく
	各コマにおける授業予定	循環器疾患・腎泌尿器疾患について小児特有の病態生理、治療 ・ファロー四徴症、心室中隔欠損症 ・ネフローゼ症候群、尿路感染症 集中治療を受けている子どもと家族への看護 ・ファロー四徴症		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達障害のある子どもと家族の看護が理解できる	教科書p.378～403	動画を視聴し、小児看護学概論の成長発達や健康段階における看護の特徴を復習しておく
	各コマにおける授業予定	発達障害のある子どもと家族への看護 ・発達障害(自閉症スペクトラム、ADHD、知的障害)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 心身障害のある子どもと家族の看護の実際を事例を通して理解できる(在宅、移行期支援)	教科書p.492～514	動画を視聴し、小児看護学概論の成長発達や健康段階における看護の特徴を復習しておく
	各コマにおける授業予定	心身障害のある子どもと家族への看護 ・脳性麻痺(在宅療養含む)		